

問 1

競技者が正規のサービスの要件に合わないと確信した場合、注意が与えられる。

問 2

ボールがネットを超えず、横からネットを迂回したり、台の下から相手コートに入った場合そのラリーは有効とはならない。

問 3

競技者は、6 ポイント毎、および最終ゲームのエンド交替時にタオルを使うための短い休憩を取ることができる。

問 4

ボールが汗でぬれていた時は、相手の汗でも自分の汗でもレットとなる。

問 5

ラリー中に相手がわずかだが台を動かしてしまった。その時自分はリターンに失敗した。この場合は相手にポイントが与えられる。

問 6

攻撃主戦型と守備主戦型（カットマン）と試合をする場合は、守備主戦型に競技エリアを（後ろを広く）譲ってもよい。

問 7

服装は、団体戦の全競技者および個人戦のダブルスを組む競技者は同じ服装でなければならない。両者とも同じで互いに変えることに同意しない場合はくじにより決定する。

問 8

団体戦の場合、競技者にゲームとゲームの間の休憩時間にアドバイスできるのは、ベンチにいることを認められた誰からでも受けることができる。

問 9

促進ルールの適用はゲーム開始後 10 分経過し、双方とも 9 ポイント以上に達しない場合に適用される。

問 10

ラバーは、ラケット本体の外周いっぱいまで、しかも外にはみ出さないよう覆うものとするが、± 2 mm 程度であれば容認できる。また、一部に損傷あっても表面の特性が著しく変化しない限り容認される。

問 11

サーブの時、ネットアセンブリに触れたボールをレシーバーがプレーイングサーフェスの上方で着用又は所持する物に触れた場合は、レシーバーのミスである。

問 12

サーブが開始されてから、ボールが打たれるまでの間、ボールは常にプレーイングサーフェスよりも高い位置で、かつサーバー側のエンドラインよりも後方でなければならない。

問 13

ラリー中に相手競技者のフリーアームがプレーイングサーフェスに触れリターンされた。この場合の返球は有効である。

問 14

団体戦の抗議は、問題が生じたマッチに参加していたチームの監督のみが、個人戦では、その個人と登録されたアドバイザーが審判員又は審判長に抗議することができる。

問 15

ラケットはJ T T Aが公認したものでなければならないが、未公認の外国製ラケット本体を大会で使用する場合は、競技開始前に主審の許可を得れば使用できる。

問 16

副審は、インプレーのボールがプレーイングサーフェスのエッジに触れたかどうかについて、近いサイドの場合は判定できるが、競技者のサーブ動作がルール違反であるという判定はできない。

問 17

促進ルールが適用されたとき、ボールがインプレーの場合は、直前のラリーでレシーブした競技者のサーブで競技が再開される。

問 18

休憩は、ゲームとゲームの間の1分以内であり、またタイムアウトを要求した場合にも1分以内である。

問 19

緊急中断は、けいれんや疲労による障害、転倒による負傷のような事故で、競技が継続できない場合にのみ認められる。

問 20

勝敗を決定するゲームで、エンドを交代せずゲーム終了後に負けた選手が誤りを発見し、主審に抗議した。しかし、主審はこのゲームを有効とした。

問 21

競技者はマッチ開始直前に2分を限度として、そのマッチで使用するテーブルで練習できるが、正規の休憩時間には練習できない。

問 22

競技者は、1マッチを通してラケットを交換することはできない。ただし、使用に耐えられない程度に破損した場合は、主審の許可を得ればどの場所からでも自由に持ってきて替えることができる。

問 23

競技場内に掲げるチームの幕は、タテ1m×ヨコ4mを最大寸法とする横幕とし、旗はタテ1.5m×ヨコ2m以内で縦幕は原則として許可されない。

問 24

タイムアウトは、団体戦においては競技者、組又は監督が、個人戦においては競技者、組又は指名されたアドバイザーが要求することができる。

問 25

競技用シャツ、ショーツまたはスカート以外に、主審の許可があればサポーター・リストバンド・ヘアバンド・スパッツを着用できる。